



あやめ



櫛形地区小中一貫校の取り組み 『あいさつ運動』

7月28日(水), 29日(木)に小中連携事業である「あいさつ運動」が、櫛形地区の各小学校で行われました。今回担当するのは中学3年生で、小学生達と交流をしました。

この活動を通して、小学校の先生方に、生徒の中学校生活での成長の様子をお見せすることができたのならとてもうれしいことです。

また小学生にとって中学校への進学に際し、環境が大きく変わるため不安感を持っている人も少なからずいると思います。そういう意味でも、この小中のあいさつ交流はとても意義があり、中学校生活に少しでも安心感を持ってくればと願っています。

今回各小学校ごとにははじめの会と終わりの会をして、感想などの発表もし合いました。とてもハキハキとした口調で話をしてくれた小学生と、お兄さん、お姉さんの立場で優しく語りかけていた中学生の、それぞれがとても素敵な空気感を創っていたのが印象的でした。中には積極的にあいさつボランティア隊を結成してくれた小学校もあり、活気が溢れる取り組みになってきました。今後も永く続く取り組みとなってくればと感じました。



＜豊小学校にて＞



＜小笠原小学校にて＞



＜櫛形北小学校にて＞



＜櫛形西小学校にて＞



開かれた学校へ！

☆3学年PTA奉仕作業へのご協力、とても感謝です。

3学年による「PTA奉仕作業」が6/25(日)に行われました。日常の清掃活動ではなかなか手がまわらない箇所を、保護者ととも、早朝より精力的に草を刈りとっていただくなど、見違えるようにきれいにしていただきました。ありがとうございました。このことが親子での会話の一助にもなれば、なお幸いです。

また、中巨摩総合体育大会陸上の部が6月22日(木)に本校グラウンドにおいて一部開催されるために、その前日6月21日(水)には下の写真のように多くのボランティア生徒が草刈りなどのグラウンド整備をして、大会運営に貢献してくれました。

保護者の皆様には、今後もPTA活動・本校の教育活動に対しまして、ご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。



期末テストが終わりましたが、すぐそこには到達度テストが迫っています……

＜櫛形中学校「学校だより」令和4年度第6号＞の再掲（一部改）

7月3日(月)、4日(火)の期末テストが終わりましたが、反省を次に生かせるような取り組みを重ねられるようにしていきたいものです。

1年生にとっては中学校で初めての定期テストを2度経験しました。不安や緊張はほぐれてきたでしょうか。結果が良いに越したことはありませんが、結果だけを見て一喜一憂するのではなく、授業の様子から家庭学習など、テストに向けての取り組み過程を振り返ったうえで、その評価をすることが大切です。その意味ではテスト勉強とは、困難や課題に対して計画的に努力し克服するという過程をロールプレイしているものと捉えることもできるでしょう。すなわち、

- 1) 計画 (plan),
- 2) 実行 (do),
- 3) 評価 (check),
- 4) 改善 (act) のプロセスを順に実施し、最後のactではcheckの結果から、最初のplanの内容を見直したり修正したりし、次のplanに結び付ける。

この螺旋(らせん)のプロセスを繰り返すPDCAサイクルの考え方は今のうちから身につけておきたいものです。

なかでも、目標の立て方は重要です。「人のやる気は自分の要求水準を満たすかどうかで左右される」という、心理学者の言葉にあるように、意欲が最も沸くのは「ちょっと難しい」と思えるレベルに目標を設定したとき、一所懸命やれば「成功しそうだ」と思えるときにやる気は出てくるものです。

また、テストそのものの振り返りも重要です。

- ・ 解答を導き出すことができなかった問題、
- ・ 解き方を間違えてしまった問題、
- ・ そもそも解答するために必要な知識・技術そのものを身につけていなかった

等、結果的に「できなかった」という点では同じであっても、その内容には大きな違いがあります。この点はしっかり見極める必要があります。

大雑把に言えば、記憶とは「銘記(めいき)」「保持(ほじ)」「想起(そうき)」の三段階の脳の活動ということになります。つまり、記憶することの最終目標は「想起する(思い出す)」ことなのです。

特に中学生の年代は「論理立てて覚える」能力が発達していく時期であり、個人的な資質の違いはあれども、適切な方法で努力や工夫をすることで、記憶力は育てられるものなのです。

そこで意識しておきたいことが「人間とは忘れる生き物」であるということ。人は学習した記憶を1時間後には56%、1日後には74%忘れてしまうという実験結果があります。3日経てば大概のことは忘れてしまうのです。ところが、友達の名前や九九、自転車の乗り方などはそう簡単に忘れることはありません。それは、繰り返しの中で身についた「長期記憶」になっているからです。

人間の脳は、繰り返しインプットされた情報は、重要な情報として忘れにくい記憶として保存するようになっているのだそうです(この作業は睡眠時に行われるそうで、良質な睡眠も学習には必要不可欠なのです)。復習(習慣化された家庭学習)が大事だというのは、このような脳のメカニズムから考えても理にかなった考えなのです。

そして、学習の中で友達と学びあうこと(想起)も理解を深めるうえで重要な手段だと言えます。自分の中で十分に理解していないと、教えることはできません。[学び合い]の中で、自分の理解度を計ることができるわけです。学習会などで積極的に[学び合い]しましょう。到達度テスト以降も、誰もが納得のいく取り組みができるように頑張ってください。

